

事務事業名		都市公園維持管理事業		☐ 実施計画登載事業 ☐ 総合戦略登載事業																									
政策体系	政策名	潤いに満ちた快適な都市環境の創造		事業期間																									
	施策名	良好な生活空間の創造																											
	基本事業名	公園・緑地の整備		☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和31 年度～)																									
根拠法令		都市公園法第2条の3		☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入																									
所属	部課名	都市整備部住宅公園課		事務事業区分 A 政策事業 B 施設整備 C 施設管理 D 補助金等 E 一般(A～D以外)																									
	課長名	金野 久志																											
	係名	公園係	電話			0192-27-3111																							
	担当者	古澤 祐	内線			327																							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 都市公園(35箇所)、いこいの広場(11箇所)、緑地(9箇所)、大船渡市浦浜地区緑地広場を良好な状態に維持管理している事業。浦浜地区緑地広場は地域による指定管理(無償)を導入している。 専門作業員1名と臨時職員1名の計2名で巡回し、施設点検や軽度の修繕作業を行い、草刈作業や樹木剪定等の繁忙時には、シルバー人材センターに業務を委託し対応している。遊具を設置している公園(29箇所)は専門業者による定期点検を年2回実施している。 また、32箇所の都市公園には公園管理人(主に地域公民館長)を委嘱し、地域活動で草刈・清掃作業等の協力をいただいていたが、平成21年度からは、都市公園愛護活動団体(主に地域公民館等)の活動に対して報奨金を支出している。 このほか、毎年県から盛川堤防法面の草刈業務も受託(主に外部への再委託で対応)している。 事業費は、公園等の遊具修繕、施設の保守点検委託などに支出される。																													
全体計画(※期間限定複数年度のみ)																													
<table border="1"> <tr> <td rowspan="6">総投入量 (千円)</td> <td rowspan="6">事業費 財源内訳</td> <td>国庫支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>都道府県支出金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地方債</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td></td> </tr> <tr> <td>事業費計(A)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">人件費</td> <td>正規職員従事人数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>延べ業務時間</td> <td></td> </tr> <tr> <td>人件費計(B)</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td colspan="2">トータルコスト(A)+(B)</td> <td>0</td> </tr> </table>						総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金		都道府県支出金		地方債		その他		一般財源		事業費計(A)	0	人件費	正規職員従事人数		延べ業務時間		人件費計(B)	0	トータルコスト(A)+(B)		0
総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金																											
		都道府県支出金																											
		地方債																											
		その他																											
		一般財源																											
		事業費計(A)	0																										
人件費	正規職員従事人数																												
	延べ業務時間																												
	人件費計(B)	0																											
トータルコスト(A)+(B)		0																											

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

前年度実績(前年度に行った主な活動)

都市公園等の維持管理と県からの受託業務の実施。いこいの広場(11箇所)と緑地(9箇所)が管理対象に加わった。

今年度計画(今年度計画している主な活動)

平成30年度内には2箇所の都市公園の新設と1箇所の都市公園の復旧が予定されている。また、3箇所の緑地の新設が予定されており、いずれも移管後から維持管理を行う。

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

公園等利用者、公園等施設

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

公園等の設備や機能を常に良好な状態に保持する。

④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)

良好な公園・広場・緑地が確保されている。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)

名称	単位
ア 作業員等の延べ実働人数	人
イ 都市公園愛護活動団体数	団体
ウ 遊具の安全点検回数	回

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)

名称	単位
カ 都市公園等の箇所数	箇所
キ 都市公園等の面積	ha
ク	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)

名称	単位
サ 遊具の要修繕比率	%
シ 利用者等からの苦情件数	件
ス 公園内での事故件数	件

(2) 総事業費・指標等の推移

			年度	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(目標)	31年度(目標)	32年度(目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円			15,579	12,500		
			都道府県支出金	千 円	2,247	2,724	2,914	2,900	2,900	2,900
			地方債	千 円			14,000	11,200	23,700	23,700
			その他	千 円	37	37	35	61	61	61
			一般財源	千 円	10,004	11,002	14,984	19,808	19,339	19,339
			事業費計 (A)	千 円	12,288	13,763	47,512	46,469	46,000	46,000
	人件費	正規職員従事人数	人	2	2	2	2	2	2	
		延べ業務時間	時 間	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	
		人件費計 (B)	千 円	14,000	14,000	14,000	14,000	14,000	14,000	
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	26,288	27,763	61,512	60,469	60,000	60,000	
⑤活動指標			ア	人	520	520	724	720	720	
			イ	団体	26	26	26	26	26	26
			ウ	回	2	2	2	2	2	2
⑥対象指標			カ	箇所	36	36	55	61	62	63
			キ	ha	25	25	27	28	28	29
			ク							
⑦成果指標			サ	%	17	12	8	8	8	8
			シ	件	0	0	0	0	0	0
			ス	件	0	0	0	0	0	0

事務事業ID	1179	事務事業名	都市公園維持管理事業
--------	------	-------	------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

地域内の子供の遊び場や地域レクリエーション・コミュニティ活動等の場として、昭和31年に加茂公園等が開設され事業が開始された。その後も市内の都市公園整備が進むにつれて事業が拡大してきた。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

都市において緑とオープンスペースを確保する役割を持つ公園は、環境や防災上の観点からも重要性が増してきている。
東日本大震災により9都市公園が被災し、うち大田南公園は平成29年5月29日に廃止した。明神前公園と大田公園以外は平成24年度までに復旧が完了している。また、防災集団移転促進事業で設置された広場等については、平成29年度までに移管が完了した。今後も(仮称)大船渡公園の新設など管理対象が増加していることから、コストも増加せざるを得ない現状である。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

毎年、予算編成にかかる要望として、地域等各方面から市内の公園の整備・充実が多数あげられている。
市民意識調査では、遊具の充実について多数要望があげられている。また、公園利用者からは、トイレの改築(水洗化、バリアフリー化)が特に要望されている。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 施設の適切な維持管理により、利用者が安全かつ快適に利用でき、良好な都市環境の保全につながる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 公共の施設として市が設置し、管理運営している公園等である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象は、市が設置している都市公園等とその利用者に限定される。 意図としては、施設の設置目的やその機能を発揮する上で必要な事業であり適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 施設の老朽化にともない修繕を必要とする箇所が増えており、現場作業員で補えないものについては外部発注が必要であるが、予算が十分に確保されない状況にある。さらに、将来的管理費用の縮減や施設の快適性の向上のためには、トイレをはじめとして施設更新を進めていくことが必要である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 施設の劣化が進み、安全性が失われる。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 復興事業の進展に伴い管理箇所は年々増えてきている。多種多様な作業や応急的な対応が必要であることから、日常専門的に管理作業に当たる現場作業員の配置が必要であり、増員や外部委託など、管理体制を検討する必要がある。他の経費についても施設修繕や専門業者による保守管理のための委託費用がほとんどであるため、削減の余地がない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現場作業員は、平成21年度以前は正職員2名であったが、平成22年度から正職員1名と臨時職員1名の体制となっている。管理箇所が年々増えていることから、作業効率の確保や安全対策上からも人員増を含めた体制の検討が必要である。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っている不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 公園は一般に開放されているため、受益機会は公平である。また、不特定多数の人が利用する公共施設であるため、一部の有料公園の施設使用料以外に受益者負担の考えはない。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性		(2) 改革・改善による期待成果	
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止		左記(1)の改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)	
(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等			
コストの低下と施設の維持を図るためには、長寿命化計画の策定が必要である。			

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
① 現状維持 ② 改革改善(縮小・統合含む) ③ 終了・廃止・休止	復興事業による公園数の増加や、芝管理が必要な公園の造成など、今後、管理体制、管理費用の両面からの検討が必要となる。